

【協働の評価】

協働で進めて いきたい理由	若年層が参加してみたい多世代交流事業のアイデアを取り入れるとともに、地域に根差した学生団体のノウハウを活用し、魅力的な多世代交流事業の展開が期待され、行政課題の解決につながるため。
協働の 成果・効果	【協働の成果目標】 ・スマホ教室周知のためのチラシを作成し、「デイ銭湯」定員の8割以上の参加を目標とする。 ・スマホ教室を4回開催する。 ・スタンプラリー達成者への景品を用意し、300人以上の参加を目標とする。
	【達成できた点】 ・スマホ教室を4銭湯で2回ずつ、計8回開催し、参加者からのアンケートでは満足度が、5段階評価のうち「最もよかった(5)」が83.3%を占め、「若い方との接点を持てた」「続けてほしい」という感想を多くいただいた。 ・スタンプラリーは用意していた景品を上回る300人以上の参加を得ることができた。景品を贈呈した参加者のアンケートでは、10歳未満から80代までの方に参加いただき、ほとんどの方から「満足した」との結果を得た。「学生が企画したからこそ、楽しんで感心しながら参加した」、「手ぬぐいのデザインがおしゃれ」等の感想をいただき、学生団体のノウハウを活用し、多世代の方に関心をもってもらえる魅力的な事業を実施できた。 【達成できなかった点】 ・スマホ教室の実施回は、「デイ銭湯」参加者の8割以上の参加者を目標としていたが、約4割の参加者であったため、達成できなかった。
相互評価 ※上手くいったこと 問題点・課題など	【事業実施前】★3 ○市 事業目的、スケジュール等をしっかりと話し合うことができた。 ○団体 ・事業目的、スケジュール等をしっかりと話し合うことができた。 ・銭湯との打ち合わせを円滑にスケジュール調整できた。
	【事業実施中】★4 ○市 ・話し合いながら、役割分担に基づき進めることができている。 ・スタンプラリー景品への双方の認識で理解が不十分なことがあった。 ○団体 ・役割分担し、円滑な連絡体制を築けた。 ・景品の発注不備で素材が違うものが届いてしまった。
	【事業終了時】★5 ○市 ・スマホ教室を次回以降も開催してほしい、という声を多数いただいた。参加者もスマホのスキルアップを図るとともに、学生が講師を務めることで、世代間交流の場が生まれ、接点が多かったことに喜びの声が聞かれた。 ・スマホ教室をきっかけにデイ銭湯への参加へつなげることができた。 ・若年層が参加してみたい多世代交流事業のアイデアを取り入れ、スタンプラリーを実施したところ、多世代にわたり参加いただき、参加者からの感想も良好であった。また、学生がデザインをした景品も期間終了時点で概ね贈呈することができ、参加者数の見込みも適当であった。 ○団体 ・スマホ教室、スタンプラリー共に、大好評で次回以降、来年度も開催してほしいとの声が多く聞こえた。 ・行政との協働事業をきっかけに銭湯の方と繋がることができ、学生と銭湯をつなげることができた。 ・学生だけでは対処できないとき、市の方からの助言をいただき、事業達成に向けて動くことができた。
今後の展望	・スマホ教室のニーズを把握したため、デイ銭湯以外の他の会場も検討する。 ・多世代のうち、特に若年層が参加したいと思う事業を協働事業により実施する。